

シリーズ29回目のテーマは《エコ暖房》

地球環境
ノート

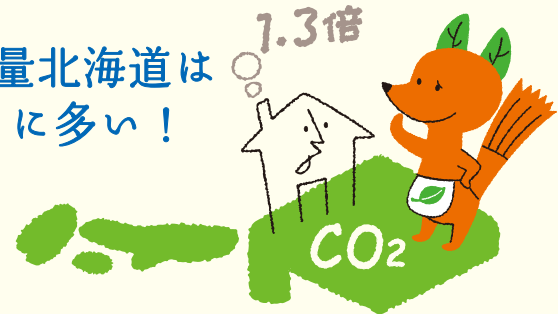
VOL. 29

「北海道発・地球環境ノート」は、「持続可能な社会」を実現するために、地球温暖化防止に向けた温室効果ガス25%削減の取り組みをはじめ、今すぐ実践できる“地球にやさしい生活”をシリーズで幅広くお伝えします。

朝晩の空気が
ひんやりする今日このごろ
暖房の準備を始める方も多いのでは。
エコロジ村の住人たちも
地球と家計にやさしい
エコ暖房に興味しんしんです。

CO₂排出量北海道は
コ～ンなに多い！

-1-



冬の寒さが厳しい北海道は、ストーブをつける期間が長く、ほかの地域より暖房エネルギーがたくさん使われています。エネルギーをたくさん使うと地球温暖化のもとになるCO₂もたくさん出てしまうことに。北海道の家庭1世帯当たりの年間CO₂排出量は全国の1.3倍、暖房に限ってみると全国の3倍排出しています。

クマった問題 温暖化を
解決するために

-2-



北海道に暮らすわたしたちがCO₂の排出の少ない低炭素社会を築いていくためには、暖房の見直しが最も効果的といえるでしょう。長い冬、少ないエネルギーで十分な暖かさが得られる効率のよい暖房を心掛けることは、温暖化防止につながるだけでなく、光熱費の抑制という経済的メリットも生まれます。

主暖房＋補助暖房
合わせワザがエコだよ

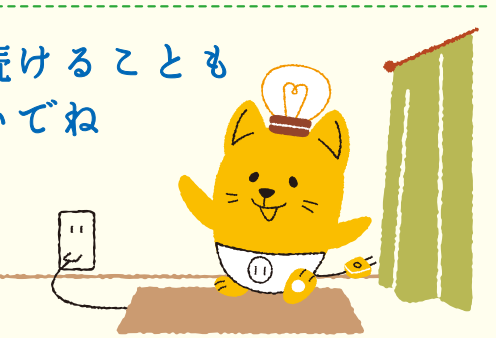
-3-



効率のよい暖房として挙げられるのが、主暖房に補助暖房をプラスする方法です。主暖房の設定温度を低くして、必要なところにピンポイント的に小さな暖房をプラスした方が、全体をまんべんなく暖めるよりも少ないエネルギーで済み、エコロジーでエコノミー。補助暖房は輻射（ふくしゃ）熱タイプのほうが、同じ室温でも暖かく感じられます。

省エネを続けることも
忘れニャいでね

-4-



効率のよい暖房と併せて、省エネルギーを心掛けることも大切です。省エネによる1人1日あたりのCO₂削減量は、暖房の設定温度を1℃低くすると521g、天井から床までのカーテンを使用すると270g、電気カーペットの温度をこまめに調節すると245gです。この冬もできることから取り組みたいですね。



HOKKAIDO! ECO
地球の“いま”と向き合い、“いま”に気付いて、“いま”から思いやりのある行動を
地球にやさしい・エコプロジェクト

エコ暖房を
マスター
しよう

室内を効率よく
暖めることで
CO₂をへらし
光熱費もカットできる
エコ暖房
どうすればいいか
みんなで考えてみたよ



～人と環境にやさしいぬくもりを～
デロンギのエコロジー活動

リサイクルシステム
不用になったヒーターは回収し、手作業で分別・分類した後、リサイクルしています。

デロンギの森
デロンギ・ジャパンは、ヒーターの売り上げの一部を熱帯地域の植林活動に役立てています。



体が感じる温度いわゆる作用温度は、気温や室温の高低だけでは無しに、床や壁などがどれだけ暖まっているか（あるいは冷えているか）によって大きく違ってきます。

エアコンや石油ファンヒーターなどが熱を放出して空気を暖めるのに対し、輻射熱の暖房は、床や壁などに直接熱を伝えて表面温度を上げるのが得意。同じ室温なら輻射熱で暖めたお部屋の方が、暖かく感じるので。

輻射熱の暖房器具は、薪（まき）ストーブ、オイルヒーター、蓄熱暖房、床暖房（ホットカーペット）などが代表的。輻射熱の暖房が有効なのは、気密性の高い住宅です。北海道は高气密住宅が多いことから、補助暖房に輻射熱タイプを選ぶことが賢い選択といえるでしょう。

北海道にピッタリ
輻射熱の補助暖房

「輻射熱」について解説しよう。

冬の20℃と夏の20℃。同じ20℃でも冬の方が寒く感じるのは、建物が冷えて切っているからなんじゃ。これを解決してくれるのが輻射熱暖房。今回はエコ暖房として注目される「輻射熱」について解説しよう。

村長さんの
知恵袋

ふくしゃ
輻射熱がエコなわけ

陽だまりのような暖かさ
人と環境にやさしいぬくもり



※参考資料：(財)省エネルギーセンター家庭用エネルギーハンドブック2009、北海道環境行動計画、デロンギ・ジャパン(株)Webサイトほか